

記載されている情報の正確さについては万全を期しておりますが、当会は利用者が当会の情報を用いて行う一切の行為について、何ら責任を負うものではありません。

情報カテゴリ：学術団体以外の組織・施設からの情報

主に該当する領域区分：全般

タイトル：緊急性の高い症状のチェックリスト

概要：厚生労働省から出された健康観察期間中に緊急性の高い症状として 13 の症状をチェックリストとして表になっている。

出典

<https://www.mhlw.go.jp/content/000625758.pdf>

アクセス日：2020-4-29

情報カテゴリ：学術団体からの情報

主に該当する領域区分：全般

タイトル：COVID19 に対する個人防護服の適切な着脱方法

概要：日本感染症学会より"第 94 回日本感染症学会学術講演会"COVID19 シンポジウム「私たちの経験と英知を集結して」の動画が配信されています。内容は『新型コロナウイルス感染症に対する個人防護服の適切な着脱方法』です。40 分程度ありますが具体的に解説されています。動画の後半には着脱の一連の流れが解説されています。

出典

<https://m.youtube.com/watch?v=LPYX2NQoBQg>

アクセス日：2020-4-29

情報カテゴリ：学術団体からの情報;学術団体以外の組織・施設からの情報

主に該当する領域区分：(高度) 急性期

タイトル：JSEPTIC & CCPAT COVID-19 共同情報提供サイト

概要：JSEPTIC と CCPAT の COVID-19 共同情報提供サイトが開設されました。国内の施設（現時点で聖マリ、神戸市立医療センター、大阪母子医療センター）のプロトコル、挿管、非挿管患者の腹臥位手順書などアクセスできるようにまとめられており、疑問点についての問合せフォームもあります。随時更新されていくようです。

出典

<http://ccpat.net/sccm-covid-19-resources-jp/?fbclid=IwAR16rfY2x5euwg6hhAF1WwxH-tPIL1-nkhWj5TcMaF4SJkjdOc1wSieWByU>

アクセス日：2020-4-28

情報カテゴリ：学術団体以外の組織・施設からの情報

主に該当する領域区分：全般;在宅期

タイトル：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）WHO 公式情報特設ページ

概要：WHO 神戸センターが、世界各国の感染状況や、一般向け・専門家向けの翻訳情報をまとめています。軽症の新型コロナウイルス（COVID-19）患者の在宅ケアと接触者の管理に関するガイダンス（3月17日更新）など、在宅での対応についても紹介されています。

出典

https://extranet.who.int/kobe_centre/ja/news/COVID19_specialpage

アクセス日：2020-4-27

情報カテゴリ：学術団体以外の組織・施設からの情報

主に該当する領域区分：全般

タイトル：新型コロナウイルス感染症 COVID-19 診療の手引き

概要：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き・第1版です（（令和2年3月17日厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部 事務連絡）。1：病原体・臨床像、2：症例定義・診断・届出、3：治療、4：抗ウイルス薬、5：院内感染防止、6：退院・生活指導、についてまとめられています。

出典

<https://www.mhlw.go.jp/content/000609467.pdf>

アクセス日：2020-4-27

情報カテゴリ：学術団体以外の組織・施設からの情報

主に該当する領域区分：全般

タイトル：新型コロナウイルスに関する Q&A（医療機関・検査機関の方向け）

概要：厚生労働省ホームページで紹介されている、新型コロナウイルスに関する Q&A（医療機関・検査機関の方向け）です。感染対策についても記載されています。

出典

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00004.html

アクセス日：2020-4-27

情報カテゴリ：学術団体以外の組織・施設からの情報

主に該当する領域区分：全般

タイトル：厚生労働省：新型コロナウイルスに関する Q&A（一般の方向け）

概要：厚生労働省ホームページの、一般の方向けの Q&A です。COVID-19 に関する全般的な情報が紹介されています。理学療法士も患者さんやご家族等から、COVID-19 について質問されることがあると思いますが、患者さんから質問されやすい内容が平易に記載されています。新型コロナウイルス感染症の予防法 一問6 高齢者の多い社会福祉施設などでは、どのような感染対策を行っていますか。の項目は、理学療法の場面でも活かせるのではないかと思います。

出典

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00001.html#Q3-6

アクセス日：2020-4-27

情報カテゴリ：学術団体からの情報

主に該当する領域区分：(高度) 急性期

タイトル：重症患者における看護実践ガイド

概要：重症患者における看護時向けの内容だが、PPE、呼吸管理、環境整備や医療機器の消毒など理学療法士にも通ずる内容がまとまっている。

出典

https://www.jaccn.jp/guide/pdf/COVID-19_guide1.Ver1.0.pdf

アクセス日：2020-4-28

情報カテゴリ：学術団体からの情報

主に該当する領域区分：(高度) 急性期

タイトル：重症患者管理教育ツール

概要：人工呼吸器管理や腹臥位療法など重症患者のケアについて理学療法士としても知っておく必要がある情報が動画コンテンツとなっている。アメリカ集中治療学会から出されているものだが動画に日本語訳もついており短時間で見ることができる。

出典

<http://ccpat.net/9845-2/>

アクセス日：2020-4-27

情報カテゴリ：学術団体以外の組織・施設からの情報

主に該当する領域区分：全般

タイトル：国立感染症研究所：新型コロナウイルス感染症(COVID-19) 関連情報ページ

概要：濃厚接触者の定義変更等に関する Q&A も公開されています。積極的疫学調査実施要領における濃厚接触者の定義変更等に関する Q&A (2020 年 4 月 22 日) Q1 濃厚接触者の定義がどのように変わったのですか 主に以下の 2 点を変更しました。1. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 感染者と接触した日のはじまりを「発病した日」から「発病した日の 2 日前」に 2. 濃厚接触と判断する目安を「2メートル以内の接触」から「1メートル以内かつ 15 分以上の接触」に

出典

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov.html>

アクセス日：2020-4-27

情報カテゴリ：学術団体からの情報

主に該当する領域区分：全般

タイトル：日本環境感染学会；医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド

概要：個人防護具の脱着や医療従事者の曝露のリスク評価と対応についても記載されています。

出典

http://www.kankyokansen.org/modules/news/index.php?content_id=341

アクセス日：2020-4-27

情報カテゴリ：学術団体からの情報

主に該当する領域区分：全般

タイトル：日本 PC 連合学会；新型コロナウイルス感染症 診療所・病院のプライマリケア初期診療の手引き

概要：日本プライマリ・ケア連合学会は、以下の3点を適切に実践するために新型コロナウイルス感染症に備えたプライマリ・ケア外来診療のありをまとめたものです； ・地域住や患者に、感染拡?防?と健康被害を最?限にするための啓発・発熱等の症状がある患者さんに、適切に診断治療 ・私たち医療従事者が、新型コロナウイルスに感染しないよう努める。特に、11. 医療機関職員の体調管理 13. 訪問診療における感染対策 14. 高齢者施設における感染対策 は理学療法の場面にも共通する。

出典

https://www.primary-care.or.jp/imp_news/pdf/20200311.pdf

アクセス日：2020-4-27

情報カテゴリ：学術団体以外の組織・施設からの情報

主に該当する領域区分：全般

タイトル：コロナウイルス (COVID-19)：感染管理と予防方法

概要：コクランの特集：Coronavirus (COVID-19): infection control and prevention measures (<https://www.cochranelibrary.com/collections/doi/SC000040/full?contentLanguage=ja>) の翻訳されたものがまとめられています。 ・医療関連感染の感染制御のための標準予防策のアドヒアランスの改善など、標準予防策の遵守を向上させるための戦略についても紹介されています。 ※”病原体の性質や伝播様式が COVID-19 について現在知られているものと異なることから、これらのレビューで要約されているエビデンスの適用は限られている可能性があります。” (コクランジャパン) とあるように、レビューの対象となった介入が、必ずしも COVID-19 に対して有効でない可能性があります。

出典

<https://japan.cochrane.org/ja/ホーム/【緊急特集】コロナウイルス-covid-19-感染管理と予防方法>

アクセス日：2020-4-27

情報カテゴリ：学術団体からの情報

主に該当する領域区分：全般

タイトル：臨床検査の偽陽性と偽陰性について

概要：日本臨床検査医学会の COVID-19 に関する adhoc 委員会より、検査における偽陽性、偽陰性、感度や特異度、適中率などわかりやすく説明されております。

出典

<https://www.jslm.org/committees/COVID-19/20200427.pdf>

アクセス日：2020-4-28

情報カテゴリ：学術団体からの情報

主に該当する領域区分：(高度) 急性期

タイトル：COVID-19 重症患者状況 日本 COVID-19 対策 ECMOnet 集計

概要：日本集中治療医学会、日本救急医学会、日本呼吸療法医学会より ECMO や人工呼吸器使用状況などの集計結果を随時更新、公表されております。

出典

<https://covid19.jsicm.org/>

アクセス日：2020-4-28

情報カテゴリ：学術団体以外の組織・施設からの情報

主に該当する領域区分：全般

タイトル：当院における新型コロナウイルス(2019-nCoV)感染症患者 3 例の報告

概要：国立国際医療研究センターからの症例（3例）報告です。

出典

http://www.kansensho.or.jp/uploads/files/topics/2019ncov/2019ncov_casereport_200205.pdf

アクセス日：2020-4-29

情報カテゴリ：学術団体からの情報

主に該当する領域区分：(高度) 急性期

タイトル：COVID-19 重症患者看護実践ガイド

概要：COVID-19 重症患者看護実践ガイド Ver1.0 が一般社団法人日本クリティカルケア看護学会から出されています。以下、項目です。 1.感染防御 1.1 個人防護具 2. 呼吸のサポート 2-1. 酸素療法 2-2. NPPV(非侵襲的陽圧換気)と HFNC(高流量鼻カニューラ酸素療法) 2-3. 気管挿管 2-4. 人工呼吸器の回路 2-5. 気管吸引 2-6. 人工呼吸器の設定 2-7. 腹臥位 2-8. 抜管 3. 院内での患者移送 4. 感染を防ぐための器具の取り扱い、リネンや廃棄物、汚染物の廃棄 4-1. 環境整備 4-2. 機器の消毒 4-3. リネン 4-4. 廃棄物 4-5. 検体 5.面会制限 5-1. 面会制限への対応 5-2. COVID-19 患者への面会 5-3.持ち込ませないための面会制限 6. 重症者のトリアージについての考え方 7. 終末期ケア 7-1. 終末期にできること 7-2. 臨死時の家族の立ち会い 7-3. エンゼルケアへの家族の参加 7-4. 終末期ケアの実践が困難な状況を予測した事前の対応

出典

https://www.jaccn.jp/guide/pdf/COVID-19_guide1.Ver1.0.pdf

アクセス日：2020-4-29

情報カテゴリ：学術団体からの情報

主に該当する領域区分：(高度) 急性期

タイトル：COVID-19 肺炎に対する HFNC の使用について

概要：日本呼吸器学会呼吸管理学会より COVID-19 肺炎に対する HFNC の使用についての指針が出ています。

出典

<http://www.jsrcr.jp/uploads/files/COVID-19%E8%82%BA%E7%82%8E%E3%81%AB%E5%AF%BE%E3%81%99%E3%82%8BHFNC%E3%81%AE%E4%BD%BF%E7%94%A8%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%84%E3%81%A6%285%29.pdf>

アクセス日：2020-4-24

情報カテゴリ：学術団体からの情報

主に該当する領域区分：(高度) 急性期

タイトル：ICU における COVID-19 患者に対する看護 Q&A

概要：主に看護師が行う業務に対する Q&A であるが、理学療法士としても知っておくと看護師とも連携が取りやすくなると思われる。

出典

https://www.jsicm.org/news/upload/COVID-19_nursing_Q&A.pdf

アクセス日：2020-4-27

情報カテゴリ：学術団体からの情報

主に該当する領域区分：全般; (高度) 急性期

タイトル：COVID-19 に対する国内各施設のプロトコル

概要：国内の3つの施設のそれぞれのプロトコルが掲載されている。

出典

<http://ccpat.net/9776-2/>

アクセス日：2020-4-27

情報カテゴリ：学術団体からの情報

主に該当する領域区分：(高度) 急性期

タイトル：COVID-19 重症患者に対する人工呼吸管理 に関する注意点 (第2報)

概要：COVID-19 の肺炎は今のところ2つのタイプに分けられ、それぞれの病態について解説されている。また時間とともにそれらが変化する可能性が高く、それぞれの病態のタイプによって人工呼吸器管理も変えていく必要がある。ただ一方で現状の情報ではまだ不足している部分があり、今後現在の考え方が変わる可能性もあるため注意は必要。

出典

https://www.jsicm.org/news/upload/COVID&MVstrategy_ECMOnet_v2.pdf

アクセス日：2020-4-27

情報カテゴリ：学術団体からの情報

主に該当する領域区分：全般

タイトル：日本嚔下医学会の指針

概要：日本嚔下医学会の指針です。嚔下訓練や口腔ケア時、吸引時の注意点が記載されています。PPEによる治療や処置が必要であることが基本的に書かれています。理学療法においても活かせる内容。

出典

<http://www.ssdj.med.kyushu-u.ac.jp/new/detail/?masterid=113>

アクセス日：2020-4-27

情報カテゴリ：学術団体からの情報

主に該当する領域区分：全般

タイトル：新型コロナウイルス感染症に関する対応について（日本呼吸器学会）

概要：一般社団法人日本呼吸器学会が公開している COVID-19 に関する情報です。研究等で理学療法士も呼吸機能検査を行うことがあると思いますが、「新型コロナウイルス感染症流行期における呼吸機能検査の実施について」（2020年3月27日掲載）の提言が参考になる。

出典

https://www.jrs.or.jp/modules/information/index.php?content_id=1468

アクセス日：2020-4-27

情報カテゴリ：学術団体以外の組織・施設からの情報

主に該当する領域区分：全般

タイトル：高齢者のための 新型コロナウイルス感染症 ハンドブック

概要：国立長寿医療研究センターが公開している、高齢者のための新型コロナウイルス感染症ハンドブックです。一般の方向けの平易な表現で、主に Q&A 形式で全般的な内容がまとめられています。

出典

https://www.ncgg.go.jp/hospital/documents/covid19HandBook.pdf?fbclid=IwAR0Wd-0-BwhEIdXn3x6o20EIM7fX8EpFFBHSe0yB7UZ72BYUSqGU_H9q58

アクセス日：2020-4-27

情報カテゴリ：学術団体以外の組織・施設からの情報

主に該当する領域区分：（高度）急性期

タイトル：コロナウイルス（COVID-19）：重症管理に役立つエビデンス

概要：コクランジャパンによる Coronavirus (2019-nCoV): evidence relevant to critical care [英文：<https://www.cochranelibrary.com/collections/doi/SC000039/full>] の翻訳です。以下のトピックに関するレビューが紹介されています。・補液と昇圧剤による治療 ・呼吸補助と機械的換気 ・機械的換気からの離脱 ・低酸素血症のマネジメント ・薬物療法 ・せん妄の管理 ・集中治療における栄養療法

出典

<https://japan.cochrane.org/ja/ホーム/【緊急特集】新型コロナウイルス-covid-19-%EF%BC%9A重症管理に役立つエビデンス>

アクセス日：2020-4-27

情報カテゴリ：学術団体からの情報

主に該当する領域区分：(高度) 急性期

タイトル：COVID-19 肺炎に対する HFNC の使用について

概要：COVID-19 肺炎管理において HFNC の使用は相反する指針がある。呼吸器内科医が今後 COVID-19 肺炎の重症呼吸不全を見ていくにあたって下記の2つの考え方を提言。HFNC が考慮できるのは『陰圧個室管理』若しくは『全体がレッドゾーンとなった病棟』において。A.通常の酸素吸入(ECMOnet 指針:鼻カニューラもしくはファスマスク 5L/分を上限)で酸素化が維持できなければ挿管管理を検討する。挿管できない理由がある時のみ HFNC を行う。B.通常の酸素吸入(上記)で酸素化が維持できなければまず HFNC を行う。それも維持できない時に挿管を行う。※A ないし B を選ぶかは各施設の状況、考え方で判断する。

出典

https://www.jrs.or.jp/uploads/uploads/files/information/20200424_COVID_HFNC.pdf

アクセス日：2020-4-27

情報カテゴリ：学術団体以外の組織・施設からの情報

主に該当する領域区分：(高度) 急性期

タイトル：国立国際医療研究センター病院のリハ科取組

概要：MGCN センター病院のリハ科の取組です。COVID19 確定および疑いの方に対応。基本的に PPE 装備(袖までのエプロン、二重手袋、N95 マスク、目の防護、キャップ)で対応。感染患者数が少なかった時は、感染や PPE の消費を抑えるため ICU でのリハは看護師さんへのアドバイスのみであったが、感染者数の増加にともなって、看護師さんの負担を軽減するため療法士が関与するようになった。人工呼吸器装着中症例に対するリハビリ担当者の訪室時には、胸郭の他動運動 と関節可動域 そして浅鎮静症例における運動を重視して実施している。呼吸訓練時で、咳をしてもらう際には、事前に説明し、本人には咳エチケットを指導し、ペーパータオルを 1 枚渡して、それに向かって咳をしてもらい、本人がすぐに捨てる。また、医療者は患者の正面に立たないように意識して行動している。その他取組が記載されている。

出典

https://www.ncgm.go.jp/covid19/PDF/20200417_2.pdf

アクセス日：2020-4-27